



# りんどう

題字：水民婦而子先生



## ふと 気がついたこと

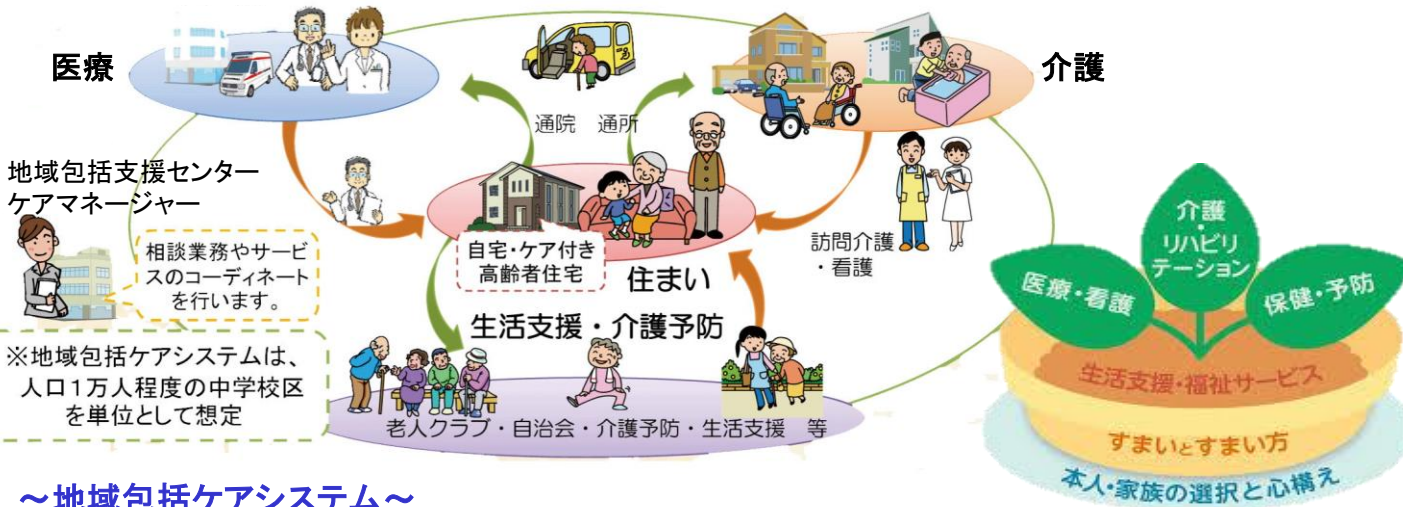
### 地域包括ケアシステム構築に関連して

熊本県女性薬剤師会副会長 羽山悦子

薬剤師になって30有余年、薬局の中でひたすら調剤をしていれば良かった日々が懐かしくも感じます。**2025年問題**：団塊の世代が75歳を迎えるとき、少子化の流れもあり、高齢者を地域で支える地域包括ケアシステムの構築が急がれ、介護・保健・福祉など他職種連携の必要性が叫ばれています。

最近、熊本県男女共同参画活動交流協議会の研修会で薬剤師の仕事を紹介する機会がありました。話をしながら、他職種連携の中で薬剤師にしか出来ないことがあることにふと気がつきました。あまりにも当然な事ですが、薬学的知識を最大限駆使して、国民の健康に寄与できるということです。薬を飲ませることは介護職や看護職の方でも出来ます。薬剤師は、患者さんが飲んだお薬の結果に責任を持つ仕事で有り、薬学的な知識を活用して、薬の効果・副作用の有無などを確認し、必要であれば医師と処方内容について話し合い、新しい提案ができる立場にいます。病棟業務を、薬局の窓口(薬歴管理)や、患者様の自宅(居宅療養管理)で行うイメージです。

おとなしい人が多いと言われる薬剤師集団ですが、今後は薬学的知識を武器に、人間性を磨き、より活発になって、地域包括ケアシステムの中で更に国民(本当は隣の人たち)の健康に寄与できる仕事に邁進していきましょう。



### ～地域包括ケアシステム～

- ◆ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- ◆ 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- ◆ 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。
- ◆ 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。

### ～在宅医療への薬剤師介入の意義～ 在宅医療サービスの質的向上

- ◆ コンプライアンス・アドヒアランスの維持
- ◆ 薬剤の影響によるADLの変化等をアセスメントし必要な情報を他職種へ提供する
- ◆ 安心・安全でより有効な薬物治療の確保
- ◆ トータルコストの抑制 **飲み残しの潜在的な薬剤費は年間475億円。**

その9割に相当する424億円が薬剤師の訪問指導等により改善されたと推計される。

平成27年度熊本県女性薬剤会総会  
平成27年4月25日(土)  
今年度の計画など決定しました



### 研修会を開催しました

日時:平成27年4月25日(土) 参加者 35名  
場所:熊本県薬剤師会館  
講演:「フィジカルアセスメントの  
チーム医療における意味」  
崇城大学 松倉 誠 先生

日時:平成27年6月28日(日) 参加者 132名  
場所:熊本県薬剤師会館  
講演① 糖尿病の合併症予防  
—血糖コントロールはどこまで必要か—  
熊本大学医学部 荒木 栄一 先生  
講演② 薬物動態学の基礎  
—腎機能と薬物の排泄を中心として—  
崇城大学 山崎 啓之 先生  
ランチョンセミナー 新規内服肝炎治療薬  
ダクルインザ・スンペプラの効果と安全性について  
ブリストル・マイヤーズ 竹之内 博文 先生  
講演③ C型肝炎治療の新しい展開  
くまもと森都総合病院 宮瀬 志保 先生

日時:平成27年8月22日(土) 参加者53名  
場所:熊本県薬剤師会館  
情報提供:女性の健康をサポートする大豆由来の  
新規成分「エクオールについて」  
大塚製薬株式会社 内山 成人 先生  
講演:「女性のアンチエイジング」  
～最後まで健康で美しく生きるために～  
熊本大学医学部 河野 宏明先生

参加者による報告を熊本県女性薬剤会  
ホームページに掲載しています



女性薬剤師会メーリング会員を募集します  
jyoyaku-kumamoto@freeml.com

### 第13回日本女性薬剤師会移動セミナーin京都

「保健・医療・福祉の架け橋となろう、そして在宅医療・在宅介護への対応」のテーマで2015年9月27日京都にて開催され3名参加いたしました。第Ⅰ部は薬剤師・医師・大学教授からの立場より講演があり、地域包括ケア・認知症の医療ケア・在宅医療における嚥下障害と誤嚥性肺炎・がん化学療法患者さんサポーターケア。第Ⅱ部は今回初の試みとしてサブタイトル「ジャンプ!理論から実践へ」のごとく実技「簡易懸濁法とクリーンベンチでの調剤」「中心静脈栄養法と経腸栄養」がおこなわれました。講演と実技の組み合わせは、女性薬剤師会らしい解りやすい企画で実り多きものでした。前日には観光・懇親会がおこなわれ、楽しい交流の時間が設けられています。次回2016年9月17日～19日青森にて日本女性薬剤師会移動セミナーが開催されます。セミナーのテーマである在宅医療・介護を中心に実技も企画される予定だそうです。どうぞご参加ください。

観光～金閣寺にて



懇親会～祇園より舞子さん登場

### 第9回日本緩和医療薬学会年会報告

2015年10月1日～4日パシフィコ横浜にて開催されましたのでご紹介します。  
当初医師をはじめコメディカルの学会として日本緩和医療学会のみでしたが、ご存じのように、緩和医療の高まりとともに薬剤師の緩和医療薬学会が発足され9年目を迎えるものであります。女性薬剤師会より2名が参加いたしました。1日目は教育セミナーが行われ、2日目からは本学会となり、疼痛管理(非がんも含む)・在宅医療・地域連携・緩和医療患者さんのこころのケア・麻薬管理・持続注入ポンプの実際等々のシンポジウム、教育講演、ワークショップがありました。  
「緩和ケアに必要な薬物療法と簡易懸濁法」及び「経管栄養と投薬」では倉田なおみ先生が演者及び座長を務められ色々なお話があり、中でも間違った経管チューブ・シリンジ使用による過去の事故の教訓を踏まえ薬剤師が病棟に在宅においても指導するべきとお話があり、先の京都の日本女性薬剤師会の移動セミナーにも東京から指導に駆け付けてらっしゃいました。また、注射薬のお薬説明書を発行している施設が少ないので発行するべきと力説されました。2016年は6月3～5日浜松で開催されます。



倉田なおみ先生